花村和也（はなむら かずや）

生年月　1983年9月愛知県生まれ
最終学歴　2009年東北大学大学院工学研究科都市建築学専攻修了
業務経歴　2009年㈱東畑建築事務所入社
現在、名古屋オフィス設計室

●担当した主なプロジェクト
2012年　静岡県警察学校本館
2012年　東北大学（青葉山２）総合研究棟（数学棟）改修
2013年　東北大学（川内１）附属図書館１号館改修
2014年　東北大学（片平）総合研究棟（多元物質系）改修
現在　土岐市新庁舎
現在　亀山駅周辺２ブロック地区第一種市街地再開発事業

■青年技術者のことば
「もの」「ひと」「こと」「まち」の四重奏（カルテット）

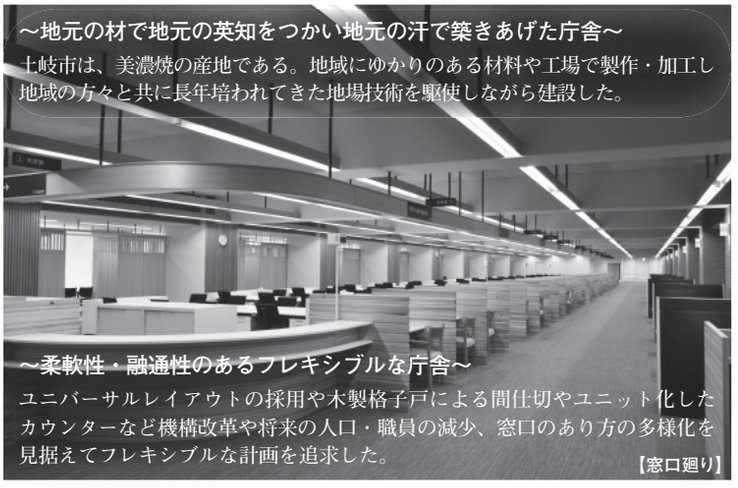
ものづくりはおもしろい。建築の設計には、単なる「もの」づくりにとどまらないおもしろさがある。立場の異なる様々な人と関わり、対話・協働する「ひと」づくり、建築に込められる機能（ソフト）や価値を新たに生み出す「こと」づくり、建築を介して都市に寄り添う「まち」づくりというように、「もの」「ひと」「こと」「まち」が建築をつくり上げていくプロセスの中で、重層的に関係しあい、最終的に空間として具現化していくおもしろさである。
公共建築は、発注者との対話を通して、設計が進められることがほとんどである。設計者は、利用者の想いをどれだけくみ取れるだろうか。たとえ公共建築であったとしてもワークショップなどを通じて、利用者の生の声を聞きとり、どんな活動ができるのか利用者とともに考えていくことが大切である。そこで出た将来像を設計者は、具体的なハードに落とし込んでいく。
また、公共建築はまちへの影響力が大きい。地域材や地域の技術を集結させて地元の方々とつくりあげる。そこでしかできない地域と密接した建築の実現。
今後も常に挑戦していきたい。

■すいせん者
瓦田信幸
㈱東畑建築事務所
常務執行役員名古屋オフィス代表

土岐市新庁舎
～次世代へのメッセージとなる庁舎づくり～
今後の土岐市のまちづくりの先導的役割を果たし未来へと受け継がれていくべき永続性のある質実の風景を創出することを追求した計画。

【北側外観】

～地元の材で地元の英知をつかい地元の汗で築きあげた庁舎～
土岐市は、美濃焼の産地である。地域にゆかりのある材料や工場で製作・加工し地域の方々と共に長年培われてきた地場技術を駆使しながら建設した。


【窓口廻り】

【議場】

～柔軟性・融通性のあるフレキシブルな庁舎～
ユニバーサルレイアウトの採用や木製格子戸による間仕切やユニット化したカウンターなど機構改革や将来の人口・職員の減少、窓口のあり方の多様化を見据えてフレキシブルな計画を追求した。

【窓口カウンター廻り】

亀山駅周辺２ブロック地区第一種市街地再開発事業
～にぎわいを創出するまちづくり～
市立図書館、共同住宅及び商業施設の複合建築物の計画。

【南側外観・おもてなしプラザ】

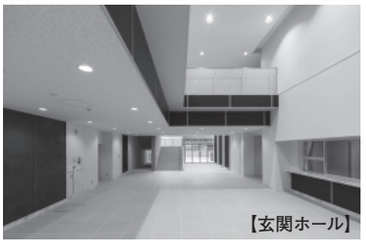
【図書館一般開架廻り】

【東側外観・交流プラザ】

静岡県警察学校本館
～警察学校の顔としてふさわしい本館～
警察官として必要な能力を効果的・効率的に習得できる施設の計画。

【北側外観】

【講堂】


【玄関ホール】